



JAPAN  
MARROW  
DONOR  
PROGRAM

## 安全情報

平成 17 年 11 月 7 日

(財) 骨髄移植推進財団  
認定施設採取責任医師 各位

財団法人 骨髄移植推進財団  
ドナー安全委員会

### 骨髄採取後、ヘモグロビン尿症を起こした事例について

このたび、非血縁者間骨髄ドナーに、骨髄採取後、高度のヘモグロビン尿症を起こした事例が報告されました。当財団としては、再発防止の観点から、当該事実を各採取施設に対し情報提供し、注意喚起を促すこととしました。

採取施設からの報告によれば以下のような概要です。

#### <経過>

Day 0	骨髄採取 当日夜まで乏尿。夜、高度のヘモグロビン尿。
Day 1	未明より尿量回復、尿色も正常に近くなる。
Day 4	LDH 正常化、尿ヘモグロビン $\pm$ となり、退院（予定より+2）
Day 24	術後健診。症状はほとんどなく（走ると穿刺部の軽度の痛み）、すべてのデータが正常化した。

#### <原因>

本症例の原因は、当該施設で実施した再現試験の結果、自己血輸血時に、輸液剤中の固形物を捕捉するためのろ過網（約 40  $\mu$ m）が先端に取り付けられているテルモ・シュアプラグ輸液セット（SP - C356P02）を通して輸血を行ったことによる溶血と考えられます。

#### <今後の対応>

自己血輸血は、原則として他の点滴ラインと別にすることが望ましいのですが、やむを得ず点滴ラインを使用して側管から輸血する場合には、使用している輸液セットの使用方法（特にろ過網の有無、側管からの輸血の使用可否）を説明書でよく確認したうえで使用するようお願いいたします。

以上をご確認の上、ご対応をお願い申し上げます。

財団法人骨髄移植推進財団  
ドナー安全委員会  
〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町 3-19  
廣瀬第2ビル 7階  
TEL 03 - 5280 - 2200  
FAX 03 - 5283 - 5629